

アグリ 筑西

平成26年2月号

まだまだ寒さが厳しい日々が続いていますね。2月→立春ということで、少し早いのですが「春」をイメージしてみました。いかがでしょうか。

県西農林事務所 経営・普及部門
(筑西地域農業改良普及センター)
Tel:0296(24)9206
Fax:0296(24)6979

筑西地域プロジェクト実績発表会を開催！～立派な農業経営者を目指して～



1月22日、ホテルニューつたやにおいて、筑西地域農業青年クラブ連絡協議会と当部門の共催で、筑西地域プロジェクト実績発表会を開催し、管内4Hクラブ員や関係機関など、約60名が参加しました。

第1部の講演会では、水戸地方気象台の職員を講師として招き、「地球温暖化の現状と予測」と題し、過去から現在の気象データをもとに地球の気象条件がどのように変化しているか、また地球温暖化が農業にどのような影響を及ぼすのかなどのお話をいただきました。

第2部では、4つの4Hクラブの代表によるプロジェクト発表が行われ、白熱した発表や活発な質問が行われました。

審査の結果、桜川市の大地のめぐみの長島剛さんの「秋作ジャガイモ安定生産方法の検討」が最優秀賞を獲得しました。長島さんは、筑西地域代表として、2月6日に行われる県のプロジェクト実績発表会に出場します。発表内容は裏面に紹介しますのでご覧ください。

平成25年度グリーンライフネットワーク合同研修会を開催しました

1月16日、筑西合同庁舎大会議室において、筑西地域グリーンライフネットワークと当部門の共催による研修交流会を開催し、女性農業者を中心とした管内農業者や関係機関等約100名の参加がありました。講師に、茨城大学農学部の中島紀一名誉教授を招き、「TPPそして農政の転換～県西地域のこれからの農業を考える～」をテーマに講演をいただきました。講演で何度も強調していたのは「TPPや農政の転換などこれから大きなうねりが来るが、それに惑わされず、自分たちの地域をどうしていきたいのか一人一人考えて欲しい」ということでした。

農業をとりまく環境が急速に変わりつつあるなか、地域に住む私たちが主体的に考え、行動していくことが大切です。当部門では、今後も女性農業者の農業・農村に関する研修を支援していきます。



筑西地域プロジェクト発表会 秋作ジャガイモ安定生産方法の検討 長島 剛 氏(大地のめぐみ) 最優秀賞発表要旨

我が家では麦・大豆の連作障害対策として春作ジャガイモ栽培を行っています。数年前から規格外のもの活用として秋作ジャガイモの栽培に取り組んできましたが、種いもの休眠期間が長く、十分な生育期間を確保しづらいことから、年によって収量がばらつくことが問題でした。そこで、休眠短縮処理(浴光処理, 変温処理)をした自家種いも、さらに、秋作ジャガイモ産地で一般的に用いられる購入種いもを用いた栽培試験を行い、その効果を検討しました。その結果、休眠短縮処理としては浴光処理の方が高い効果を得ましたが、収量は休眠短縮処理を行った自家種いもよりも購入種いもの方が大きく優れました。今後、自家種いもに対するさらに効果的な休眠短縮方法を模索するとともに、購入種いもによる栽培も継続し、収益性の高い生産方法を検討していきます。

イチゴ若手生産者の集いを開催



12月19日に筑西合同庁舎において、JA北つくばいちご部会の40歳未満の後継者、新規就農者12名を対象に「いちご若手生産者の集い」を開催しました。集いでは経営内容や目標、課題、悩み等について自己紹介をし、情報交換や意見交換を行いました。イチゴの栽培技術や苦労話、家族の話、パートの話等、話題も多岐に渡り、若手生産者同士の交流をおおいに深めることができました。当部門では、今後も若手生産者の仲間づくりを支援していきます。

真壁高校生、先進農家の技術を学ぶ ~先進農家交流会(ぶどう)~

1月14日、結城市の会沢巨峰ぶどう園で、真壁高校農業科の1, 2年生16名を対象に、先進農家との交流会を開催しました。

実習では、園主の勝雄氏と後継者の将史氏の指導のもと、短梢剪定一文字整枝の「シャインマスカット」を剪定しました。今回は、各自が切った場所に名前を書いたラベルを取り付けて剪定後の生育の様子を観察することとなり、みな真剣な様子で剪定に取り組んでいました。

真壁高校では学校の農場でも「シャインマスカット」の栽培を行っていることから、「同じ房の中で糖度のばらつきをなくすためにはどうすれば良いか?」、「美味しい房を作るコツは?」等、生徒から栽培技術に関する質問が多く出されました。また、専業農家として農業を行う上での心構えなどもお話いただき、生徒たちも熱心にメモを取り、非常に有意義な交流会となりました。



普及員のひとりごと ~中山 千尋~

この職場に来て、たくさんの農家の方と出会う機会に恵まれました。近年は、食べ物を作った人の顔が見えない世の中。自分が口に入れる食材を、誰がどんな苦労をして育てているか分かれば、もっと感謝やありがたみを感じると思います。「生きる」ために「食べる」ことは必要不可欠。人間にとって「農業」は最も大切な仕事です。「農家の言葉」は価値があります。より多くの人に思いを伝えていただけたらと思います。

編集後記

梅の木でよく見かける緑色の鳥はウグイスではなくメジロなんだそうです。最近まですっかりウグイスだと思い込んでいました。(川崎) ↓ウグイス

